時事新報

驛遞局認可

明治十八年四月三日（西曆一千八百八十五年）金曜日

第九百三十三號　日曜日休刊

社告（横濱港內購讀諸君へ）

今般時事新報購讀諸君御便利ノ爲メ横濱港ニ時事新報特別賣捌所ヲ設ケ同港內ノ新報配達及ヒ豫約前金受取ノ事ヲ横濱區太田町六丁目九十五番地鈴木重治ニ委托致候ニ付該書御愛讀可被成下候就テハ左ノ件々篤ト御承知被下度此段豫告白候也

一明治十八年四月一日以後新報配達及ヒ豫約前金受取ノ事ハ右賣捌所ニ於テ取扱候事　但從前豫約前金御拂込相成候御方ヘハ引續キ御遞送申上次回ノ豫約金受取ノ事ヨリ右賣捌所ノ取扱ト相成候

一横濱港內ニテ新ニ時事新報御注文、又ハ配達先キ御取替等ノ事ハ本社ニ御通報ニ及バズ直チニ右賣捌所ニ御申込可被成下候

一東京御住居ノ御方ニテ時事新報社ニ豫約前金御拂込相成右期日未ダ相盡サヽル前横濱港內ニ御轉住ノ節ハ該殘餘金ノ預證書ヲ差上ゲ候ニ付右証書ヲ以テ横濱特別賣捌所ニ御申込相成候ハヽ右期日迄ハ代金ノ授受ナク新報遞送可致又横濱特別賣捌所ニ豫約前金御拂込ノ後東京ニ御轉住相成ル節モ同樣右賣捌所ノ預證書ヲ以テ御申込相成候ヘバ本社ヨリ引續配達可仕候

一時事新報紙上ニ廣告文ヲ掲載成サレ度御方ハ右賣捌所ニ於テ無手數料ニテ取次可致候間同所ニ御申込可被成下候

明治十八年四月一日　東京日本橋區通三丁目十一番地　時事新報社

廣告

○明治十八年四月一日

敍從四位

正五位　鷹司　熙通

從五位　二條　基弘

仝　仝　近衛　篤麿

仝　仝　一條　實輝

時事新報

佛國內閣ノ更迭其影響如何

昨日ノ時事新報佛清事件欄內ニ上海在留本社特派通信員本多孫四郎氏ヨリ到來シタル電報ヲ掲ケ支那兵ハ大勝利ニテ諒山ヲ復シ佛國議院ニ億ふらんくノ軍費ト五萬ノ出兵トヲ廢案ニ歸シ現宰相ふゑりー氏其職ヲ辭ストアリ又一昨日横濱發兌ノめーる新聞ニモ佛國內閣ハ代議院ニ於テ失敗ヲ取リタルガタメニ辭職シタリトノ電文ヲ記セリ右二報トモ唯電信ノ短文ニシテ事ノ子細ハ詳ナラザレバ我輩ノ兼テ聞及ビタル佛國政治上ノ事情ヨリシテ考ルトキハ臆測ナガラモ說ナキニ非ズ抑モ佛清ノ葛藤ハ去年六月ノ頃ヨリ更ニ新ニ其端ヲ開キ遂ニ兩國戰爭ノ姿トハ爲リタレドモ佛人ノ擧動兎角活潑ナラズシテ人ノ耳目ヲ驚カスホドニ花々シキコトモナカリシハ其本國ノ內ニ東洋ノ遠略ヲ好マザル者甚ダ多クシテ自然國會ノ議場ニ於テ軍費出兵等ノ事ニ付キ現政府ノ請求ニ反對シ之ガ爲ニ政府モ意ヲ逞ウスルヲ得ザリシモノナリ蓋シ其反對議者ノ言フ所ハ固ヨリ支那ヲ恐レテ手ヲ引カントスルニハ非ズ事ヲ內ニ備ルノ趣意ニシテ就中隣國ノ獨逸ニ對シテハ片時モ油斷ス可ラザルノミナラズ苟モ先方ニ釁ノ乘ス可キモノアレバ我レヨリ進ンデ十餘年前ノ讐ニ報スルノ事ナカル可ラズ然ルニ今ノ內閣ハ何カ獨逸ノ宰相ト內々謀シ合セタルコトアリト稱シテ其眼ヲ外ニ轉シ却テ歐洲內部ノ大勢ヲ餘處ニスルガ如キハ決シテ策ノ得タルモノニ非ズ畢竟スルニ隣國ノ老翁ニ欺瞞セラレテ其老手段中ニ籠絡セラレタルモノナリ云々トテ政府ヲ駁スルノ議論日ニ喧シク既ニ本年一月初旬陸軍卿かんぺのんガ辭表ヲ呈シテ去リタルモ其趣意ハ矢張リ此邊ニ在ルモノナリ斯ク佛蘭西ノ國中ニ於テ政府ニ反對スル者多シト雖ドモ左レバトテ政府モ今更騎虎ノ勢、何ヲ標ニシテ手ヲ引ク可キ樣モナク假令ヒ暫ク內ノ輿論ニ反シテモ戰勝ノ國光ヲ以テ更ニ輿論ヲ製造スルノ心算ニテ月餘以來ハ支那ノ海陸ニテ佛兵ノ運動ハ益盛ナルガ如クナリシガ到底內國多數ノ人心ニハ政府モ敵ス可ラズシテ終ニ今回ノ始末ニ及ビシコトナラン但シ此佛國內閣ノ辭職ハ直ニ支那兵諒山ノ勝利ニ關係シ支兵勝利ニテ佛兵敗北シ、敗北シタルガ故ニ新ニ軍費ト出兵トヲ求メ、之ヲ求メテ得ザリシガ故ニ辭職シタルト云フガ如ク前後始末連絡シタルモノカ其邊ハ今日ニレヲ知ル可ラズ支兵勝利ノ報知ハ每度我輩ヲ欺キタル例モアレバ容易ニ之ヲ信セズト雖ドモ其勝敗ハ兎モ角モ內閣辭職ノ事情ハ大凡ソ鄙見ノ臆測ニ違ハザルコトナラント信スルナリ

斯ク佛國ノ內閣ガ更迭スルトキハ其新內閣ハ目下ノ東洋侵略ニ付キ假令ヒ俄ニ中止セザルモ前內閣員ノ騎シタル虎ニ騎シテ益進ムコトハナカル可シ大槪ノ處ニテ國ノ面目ヲ汚スコトナケレバ斷辨シテ支那ノ和議ヲ容ル、コトナラン支那モ亦葛藤ノ初ヨリ今日ニ至ルマデ曠大ニ失ハザルノミニシテ嘗テ一度モ得タルモノトテハナキ次第ニシテ其平和ヲ冀望スルノ情アルハ問ハズシテ明ナレバ些少ノ口實ヲ設ケテ自カラ榮譽ヲ裝ヒ以テ佛ノ請求ニ應シテ和ヲ成スコトナラン扨佛清ノ和議成ルトシテ其清廷ニ影響スル所如何ナル可キヤト尋ルニ最初ノ葛藤ノ發端ニ於テ支那ノ廟議二ニ分レ和セントヘ云フ者アリ戰ハントヘ云フ者アリテ一方ハ恭親王李鴻章ノ黨與、一方ハ醇親王左宗棠彭玉麟ノ一類、双方ノ意見相投セズシテ政權ハ遂ニ醇ノ方ニ歸シ純然タル主戰黨ノ政府ト爲リテヨリ以來ハ其擧動常ニ人ノ意想外ニ出デ、戰テ敗シテモ敗シタルヲ知ラズ、手ヲ物ヲ失フテモ其物ノ減シタルヲ憂トセズ、福州ニ臺灣ニ又寧波ニ幾度ノ失敗モ其中央政府ノ感覺ヲ動カスニ足ラザルハ大象ノ皮膚ニ灸シ長鯨ノ尾端ニ針スルニ異ナラズシテ滿朝皆言フ佛匪恐ルヽニ足ラズ今ニ應ニ中國ニ款ヲ乞フナラントテ悠々自得ノ顏ヲ爲ス其最中ニ偶然ニモ佛國ノ內ニ變ヲ生シ、ニ和議ノ容易ナル可キ時勢ニ逢フタルコトナレバ其驕慢如何ナル可キヤ俗ニ所謂天狗ノ高鼻百尺ニシテ曩ニ和議ヲ執リシ一流ノ人ハ復タ顏色ナク口ヲ閉シテ屏息スルコトナラン我輩ノ素論ヲ以テスレバ假令ヒ今回支那ガ首尾能ク佛ト和シテ一時ノ小康ヲ得ルモ今ノ文明世界ニ國シテ獨リ文明ノ範圍外ニ居ラントスル者ニシテ到底其國ヲ維持スルコトノ叶フ可シトモ思ハレズ佛去レバ露來ラン、露來ラザレバ他ニ又英獨ノ在ルアリ何レニシテモ支那帝國ノ運命ハ既ニ定マリテ限アルモノナレバ何ハ扨置キ今度若シ佛清媾和ノ成行キ我輩ノ臆測ノ如クナラバ一支那人ノ氣鋒ハ其銳ヲ增スコトナラント信シテ間違ヒナカル可シ

又コノ一條ガ我日本國ニ如何ナル影響ヲ及ホス可キヤト考ルニ支那ガ一度ビ主戰ノ主義ヲ貫キテ見事ニ歐洲ノ一大强國ト媾和ヲ成シタルヨリシテ今後如何ナル强國ニ逢フモ同樣ノ轍ニ由テントシテ心算ノ組立スルコトモアラン或ハ一ヨク强國ト和シテ却テ弱國ト戰テ大ニ敗スルコトモアラン何レニモ此一擧ハ支那人ノ膽勇ヲ進メテ其敗滅ノ速力ヲ增スモノナレバ其時ニ臨テ我國ノ利害ニ關シテ容易ナラザル事ノ起ル可キハ當然ノ數ナレバ是レハ先ツ以テ後日ノ事トシテ目下差向キノ處ニテ大切ナル事ト申スハ我伊藤大使ガ天津談判ノ一條ナリ大使ハ一度ビ北京マデ入リタレドモ復タ天津ニ還リ昨今ハ正ニ談判最中カ又ハ將サニ談緒ヲ開カントスルノ時ナラン此談判ノ事柄ハ世ニ隱レモナキ朝鮮事變ニシテ當時支那人ト朝鮮ノ京城ニ相對シテ我日本國ガ圖ラズモ曲ヲ被リタルガ故ニ其曲ヲ伸サンガタメニトテ特ニ全權大使ノ派出ヲ煩ハシ其事ハ隨分入組ミタルモノナレドモ詰リ我大使モ平和ノ主義トハ人モ知ル所、又支那ノ政府モ此節柄必ズ和議一方ニ傾クコトナラン左レバ伊藤大使ノ談判モ[illegible]ニ井上大使ガ朝鮮ノ京城ニテ重大至極ノ事ヲ數時間ニスラ〳〵ト結了シタルモノヽ如ク彼ノ全權大臣李氏呉氏ト相會シ一席ノ談ヲ以テ二大臣ヲ服セシメ我至當ノ要求ニ滿足ヲ取リ我朝野ヲシテ日本ノ國權萬々歲ヲ呼ハシムルハ不日ノコトナラント思ヒシガ此國交際ノ掛引ニ厘毛ヲ爭フハ何地モ同シコトナレバ今回偶然ニモ佛清關係ノ變動ニ會シ或ハ實ニ變動ナキモ主人ノ意圖ニテ支那政府ニテハ必ズ變動アル可キモノト見做シ是レマデハ佛國ナル大頭痛ヲ惱ミシモノガ俄ニ輕快ヲ覺ヘタルノ心地スルコトナキヲ期ス可ラズ蓋シ頭痛ノ劇シクシテ目モ開ケラレズ其時ニ人ト要事ヲ語ラントスレバ應否ノ返答ヲ遲ニシテ事ヲ自身ノ養生ニ心ヲ傾クルハ病中ノ當然ナレドモ劇痛ノ間アレバ自然ニ其要談ニ意ヲ注ギテ厘毫ノ利害ヲモ等閑ニ附スル勿ラントスルハ是亦人間ノ常情ナリ知ラズ支那政府ハ今回佛國內閣ノ更迭ノ爲ニ大頭痛ノ輕快ヲ取ル可キヤ否ヤ後報ヲ待テ讀者ト共ニ其如何ヲ見ル可シ

雜報

○勳章親授並奉授式　昨二日は前號に其略を記したる如く午前宮中に於て勳章親授式並に奉授式を執行されたりと

○破產法取調委員　寺島宮內省出仕外九名は去月四日左の通仰付けられたり

制度取調局御用掛宮內省出仕　寺島　宗則

破產法編纂委員長被仰付候事

破產法編纂委員被仰付候事　元老院幹事　細川　潤次郎

仝　元老院議官　箕作　麟祥

仝

仝

仝

仝

仝

仝

仝

○位階被進　正

左之通仰渡され

特旨ヲ以テ從

仝

仝

仝

○參謀　阿武

られたり

演習師團參謀

演習師團參謀

演習師團第五

演習師團第

演習師團

○榮轉　村田

我太政官少書記

老院議官に任じ

○上京　堀井

したり

○東京區部會

より區部會と

豫算、同共有金

會を開き執る

方稅支出豫算に

二次會と開き內

る事と爲り其內

十一圓餘)に一

入の爲に九千八

番(須藤)本員は

抑も收入稅ハ各

多きは日本橋、

三區に在り若し

に十五區租稅各

入れられども舊

萬世橋、鐵車

るなり其轄簡

七斗五升、代價

馬力九分噸永

八圓餘なり六番

意見に反對ある

番の云ふ如き

時れ出費なれば

(小野田二番

は理事者に於て

稍先般買入の

傲るも同番

功と奏せり六十

充分なれども一時

の發明ある際

く修正したる

大形の如き小

つ其上形を買入

於て舊其小形

(木寺)三十一番

も難し如何なる

失する者なる

云下し且橫